
令和3年度の博物館実習（館園実習 ・学内実習・見学実習）について

九州保健福祉大学学芸員養成課程

令和2年初頭から引き続くコロナ禍においては、一定の時間的経過を経て状況に対しての「慣れ」が生まれているのと同時に、様々な場面においては変わらずの「難しさ」が並存している。大学・短大や各種学校には様々な資格課程が存在するが、これら学校での実習系科目も、こうした複雑な困難さの中でしばらくは進めていかざるを得ないのだろう。

令和3年度もこの新型コロナウイルスの感染拡大によって学外実習での期間短縮といった事態が生じたが、九州保健福祉大学ではこのような事態に陥る可能性を考慮して複数の博物館での実習実施を検討していたので、実際に感染拡大によって実習期間短縮という状況になりながらも、時間数を確保する措置が講じられたのは幸いであった。むしろ今になって思えば、異なった館種・複数館での実習受講は受講生にはプラスの側面すら生じていたのではないかと考えている。

ただし、ある特定の館での実習が短縮されるのは年間のスケジュールの埒外である感染拡大状況に依存せざるを得ないので、そこから別の館に改めて実習を依頼し受講生を参加させるまでには一定の空き期間が生じてしまうという問題が明らかになった。このブランクを埋める措置をこしはらくは検討していかなければならないだろう。

令和3年度の博物館実習受講生は3名で、いずれも4年生であった。

また、九州保健福祉大学の学芸員養成課程では、見学実習については博物館概論の一環として実施している。例年と同様宮崎県総合博物館と宮崎県立西都原考古博物館において実施した（11月6日実施）。参加した受講生は5名である。

大淀川学習館（宮崎県宮崎市）

実習期間：令和3年10月22・23日

みやざきアートセンター（宮崎県宮崎市）

実習期間：令和3年11月6日～8日

薬学部動物生命薬科学科

岡上 千紘

私は10月22日と23日の2日間を宮崎県宮崎市にある大淀川学習館、11月6日～8日の3日間を同じく宮崎市にあるみやざきアートセンターでそれぞれ博物館実習に参加した。

1) 大淀川学習館

大淀川学習館は、大淀川浄化活動及び大淀川学習のシンボリックな施設として平成7(1995)年3月に、宮崎市下北方町の大淀川中流域から下流域に至る場所に設置された館である。自

表1：初日のスケジュール（大淀川学習館）

8時30分～	朝礼(実習挨拶)・館内の照明や映像資料の確認(コロナにより一部施錠確認)
9時～	ちょっぴりこわい生き物展の見学 10月30日からの企画展「昆虫食～おいしいむし～展」の展示準備のお手伝い
12時～	昼食・休憩(1時間)
13時～	<ul style="list-style-type: none"> * 蝶のお世話 →さなぎから孵った蝶を種類別に引数確認・幼虫のお部屋の掃除・水換え・餌確認 * カメのお世話 →水槽内の清掃・水換え、石洗い、餌やり * トカゲのお世話 →水換え(飲用水)、餌やり(生きている蜘蛛) * カエルのお世話 →水換え(飲用水)、餌やり(生きている蜘蛛、ミルワーム、バッタ、蛾 etc…)

然観察・自然体験や環境教育など、大淀川の恵まれた自然を広く学習・体験できるような展示の工夫がされている。

私の父が宮崎市の出身であり、父の実家に帰る合間を縫って幼少期に何度もここを訪れていた。それきっかけで、学芸員の勉強を始めた際にこの施設のバックヤードを見たいと考え、実習先として選んだのであった。実習依頼から参加当日までこまめに連絡をとりながら話を進めていたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初夏休み期間中に10日間で行われるはずだったものの、緊急事態宣言の発令により延期に延期が続き、仕舞には2日間に短縮された中でのプログラムであった。

1日目のスケジュールは表1の通りである。

初日は朝礼後、当日行われていた「ちょっぴりこわい生き物展」の見学からスタートした。展示されている生き物が比較的低い位置に展示されていたり、キャプションもひらがなが多めだったりと子供が見やすい工夫がされていた。

見学が終了した後、10月30日より開催予定であった『昆虫食～おいしいむし展～』の手伝いに加わった。キャプションとなる土台切り、印刷したキャプションを切った土台に貼る作業、作成したキャプションの配置や全体の展示レイアウト(写真1)など、実際に私たちが大学の授業で習ったり実践したりしたことが活かされた作業内容であった。同時に、展示を1から企画し形にするということは、自身も7月の博物館実習ので企画展示で体験はしたものの、作業をしている過程で改めて難しいと感じた。また、昼食の時には実際に「昆虫食」を食べさせていただき、貴重な体験をすることができた。



写真1：『昆虫食』展示での工夫されたキャプション

午後は、蝶のバックヤードにいる、蝶・カメ・トカゲ・カエルの飼育作業を行った。

はじめは蝶の飼育であった。さなぎがたくさん入っている網状のゲージ（写真4）やケースの中の、孵った蝶（羽が乾いている蝶のみ）を種類別に匹数確認し、自然楽習園という部屋に放つ。蝶を素手で捕まえることと、それを行うと同時に匹数を数えた個体を網に入れ逃げないようにするのが難しく、大変であった。

匹数確認後は、幼虫の部屋（写真5）の掃除・水換え・餌の葉っぱ確認を行い、餌となる葉っぱが足りない場合は、学習館のそばにある植生園へ取りに行き補充を行った。

カメの飼育作業では、水槽内の清掃と水換え、ゲージ内に入れてある石洗い、餌（ペレット）やりを、トカゲとカエルの飼育では、水換え（飲用水）と、給餌（生きている蜘蛛、ミルワーム、バッタ、蛾 など…）を行った。ここで苦労したのは、給餌であった。私は蜘蛛が苦手である。ピンセットを使用しているとはいえ、苦手なものを扱うのは難しく、結局館の職員の方をお願いした。同時に、苦手だからとはいえ、これを仕事にするのであれば克服してでも我慢してでもやらなければいけないのだなとも思った。

1日目は、①展示の際には客層を見極め、キャプションのふりがなの必要性や文字の大きさなどを考えることが大切だということ、②餌となる植物を絶やしても、幼虫が死んでしまってもいけないためバランスを見極めることが必要、③餌として生きている蜘蛛を与えていたのはよりたくさんの生物を捕獲し食しているため栄養価が高いから、という3点を学びを知ることができた。

2日目のスケジュールは表2の通りであった。この日は土曜日だったのと、イベントが開催されたこともあり、1日目に比べるとすごくバタバタしていた。

表2：2日目のスケジュール（大淀川学習館）

8時30分～	朝礼(挨拶)・館内の照明や映像資料の確認(コロナにより一部施設確認) エントランスにあるホワイトボードにその日に開催されるイベント等を記入
9時～	イベント工作「風船でハロウィンおばけを作ろう！」の準備と事前打ち合わせ →準備：備品の確認、会場内の換気 など 事前打ち合わせ：案内や会場内の誘導方法について など
10時～	イベント受付開始 →子供へぬり絵の案内、保護者様へイベント参加にあたっての承諾書の記入依頼
10時15分～	イベント開始 *作成の仕方についてのサポート ～11時15分 イベント終了 → 片付け
11時20分～	シアター上映の案内準備と案内 →整理券の回収、手指消毒の呼びかけ
11時45分～	イベントの片付け手伝い
12時～	昼食・休憩(1時間)
13時～	魚バックヤードにいるお魚やカメへ餌やり
13時35分～	イベント午後の部の受付・案内のお手伝い
14時5分～	アカメ用に学習館前の池でエビ取り(あまり餌を食べないアカメに生餌としてあげる)
14時30分～	イベント工作：お客さんの製作手伝い
15時～	イベント終了 → 片付け
15時25分～	アカメにエビやり カメの水槽内の水替え 企画展「身近な生き物と仲良くなろう！金魚・メダカ・カメ展」準備 →水槽内に石を入れてレイアウト、展示室にいる金魚の様子の確認・餌やり 常設展示の方の魚たちの様子確認

イベントに関して、アルバイト先の保育園で普段から子供と接していたのもあり、子供が怪我をしないように補助をすることはできた。だが、午前中は説明をするとなると難しく、人見知りの性格が表に出てしまったり、言葉選びに迷ってうまく話せなかったりした。また、子供達だけでなく、保護者の方々へも声掛けをする必要があったものの、これもうまくできなかった。午後はその反省を活かして取り組んだ。その成果か参加者の方から「優しく接していただいた」とのお声をいただいてとても嬉しかった。この他にも、シアター上映やイベント等が重なる場合は、その時その時で動ける職員が臨機応変に対応していくというのも大事であると学んだ。

午後は魚のバックヤードでの作業を中心に動いた。もちろん、展示部屋の魚たちの飼育もある。魚の種類や口の大きさ、カメの大きさなどによって、水槽の底の方にいる魚には水面から沈む餌を、上の方で泳いでいる魚には浮く餌を、といったように餌の種類や大きさを分けて与えた。また、この日はバックヤードにいたアカメの元気がなく、餌はペレット状のものではなく学習館前の池でエビを捕まえ、生餌として与えた。

給餌の次はカメのゲージ清掃を行った。カメのゲージは大きい内側を軽く磨き、高低差の利用で汚れた水を排出してきれいな水を入れていた。

その後、企画展『身近な生き物と仲良くなろう！金魚・メダカ・カメ展』の準備として、水槽内に石を入れてレイアウトを行ったり、展示室にいる金魚の様子の確認・給餌を行った。見たことのない種類のメダカの説明していただいた上、金魚の模様が個体によって異なるといった、知ってはいたものそのままで注意して観察したことがなかったことも、この機会に観察できたので、大変興味深かった。しかし、魚の世界はちょっとした水温や環境の変化などに弱く、昨日まで元気だったのに今日になったら死んでしまっていた、ということが起こりやすいとのこと。そのため、その都度の対応が大変であるとのことだった。人間とは体の構造が違う分、扱いにくいところも多いため、もう少し魚について詳しく知りたいと思った。

大淀川学習館の魚のバックヤードには、けがをしたり少し弱ってしまったりした魚やカメもいた。中には人間に釣りあげられ、釣り針と釣り糸が顎に付いたままリリースされてしまったスッポンもいた。このスッポンがなかなか心を開いてくれないという話を聞いたとき、人間が人にされて嫌なことがあるとトラウマが残ってしまうように、動物にも心はあり、同一人物ではなくとも人間というくくりにおいて、されたことは覚えているのだと感じた。

大淀川学習館の実習で全体を通して学んだことは、やはり生き物を扱っている上いつどこで何が起こるか分からないので、臨機応変にその場に合わせて対応していくことが1番大事だと思った。ただ、仕事は生き物の世話だけではないので、館の他のスタッフと協力しながら対応をしていかなければならないため、「報・連・相」を含めた普段からのコミュニケーションも大事なのだと感じた。

2) みやぎぎアートセンター

みやぎぎアートセンターは、宮崎市の中心市街地活性化基本計画によって2009年(平成21年)10月に誕生した新しい文化公共施設。展示スペースや小規模ホールなどを備えており、市民が気軽に利用できる「まちなか」の活動拠点として、宮崎市中心市街地活性化のシンボルになることを目指している施設である。

みやぎぎアートセンターへは1・2日目は同学科の野呂さんと共に、3日目は私のみで実習に参加することになった。当初は時間数が足りるならば大淀川学習館の実習のみでと思っていたが、自然史系だけではなく、美術系にも触れられる良い機会だと思い、実習に臨んだ。

表3：みやざきアートセンターでの実習スケジュール (a. 初日、b. 2日目)

10時～12時	みやざきアートセンターの概要説明と過去に行った展示会の紹介 宮崎市美術展の観覧 展示計画書の作成(一部スペースを利用し自分なりの展示会を行うと仮定。展示作品は市美展の作品を使用。)
12時～13時	昼食
13時～13時45分	大暮維人展 チラシ設置依頼 → 13時45分～14時 小休憩
14時～14時25分	受付・監視業務説明
14時30分～15時30分	受付業務
15時30分～16時30分	監視業務
16時30分～	日誌記入

a.

9時～9時30分	全体朝礼・掃除(机の消毒)
9時30分～10時	監視アルバイトさん朝礼、生頼範義賞表彰式 見学・片付け
10時～10時30分	4階写真部門室の監視業務・作品点検
10時30分～11時30分	キャプション作成・配置、照明設置
11時30分～12時	Art boxチラシの枚数分け(20部一組)
12時～13時	昼食
13時～14時45分	生頼範義先生についてのレクチャー → 14時45分～15時 小休憩
15時～16時	クリスマスツリー、足跡サインづくり
16時～16時30分	Art boxチラシの枚数分け(20部一組)
16時30分～	日誌記入

b.

1日目のスケジュールは以下の表3aのとおりである。

初日はアートセンターについて知ることから行った。また、実習期間に宮崎市美術展(以下[市美展])が開催されていたため、その展示品を自分でテーマを決め選出し、一つの展示会を行うという想定で、展示計画書を作成するという実習課題が出た。

また、この市美展期間後に日向市出身の「大暮維人」さんおおぐれいとに関する展示会が開催予定であったため、チラシ配置の依頼をしに近くの飲食店や雑貨屋さんなどのお店を回った。

午後には市美展の受付・監視業務、同日程で実習に参加していた野呂さんと1時間交代で行った。

次に2日目のスケジュールは表3bの通りである。



写真2：展示作品の位置を確認する



写真3：ライティングの確認と角度調整

1日目にもあった監視業務。具体的には何を行うのか。ここでは、来場された方が作品に触れたり、作品の関係者以外の方が写真を撮ったりしていないかなどの監視を行った。また、展示期間中の温湿度の変化や少しの振動などにより、作品にゆがみや出ていないかどうかの確認や、作品がきちんとまっすぐ展示されているかどうかの確認（写真2）も監視業務の際に行った。監視業務を行ってくださる監視アルバイトの方がいらっしゃったが、作品の異変に気付いたり疑問に思ったりしたことがあっても、専門知識がなくアルバイトさんでは対応ができない。そのため、学芸員へ異変を知らせたり質問をしたりするための用紙も置いてあった。

表4：みやざきアートセンターでの実習スケジュール(3日目)

9時～9時30分	全体朝礼・掃除・開場業務(展示室内の温室度測定)
9時30分～10時	監視アルバイトさん朝礼、開場業務の続き
10時～12時	宮崎市美術展：ビビット賞の仕分け(住所まで記入されているかどうか、等の一定基準ごとに仕分け) 浮世絵展準備(パーツラミネート→切り分け) 工作用スペースの一部撤去作業
12時～13時	昼食
13時～16時30分	(午前中の続き) ビビット賞の仕分け→部門ごとに切断・仕分け(無鑑査作品を記入していないか、等の確認) 浮世絵展準備(パーツ切り分け)
16時30分～	日誌記入

2日目は照明設置も行った。動線の目印となる看板が少し暗いということで、その看板を見やすくするための照明を設置した。照明の取り付け方を教わり(写真3上)、実際に取り付け、角度や位置を確認しながらライトを当てた(写真3下)。微調節が難しかったが、しっかりと行うことができた。

最終日である3日目は、ほぼ室内での作業のみであった(表4)。市美展の来場者投票で賞を決める“ビビット賞”の仕分けや、2022年5月に開催予定の浮世絵展のパーツ切りを行った(写真4)。ラミネートをした用紙(1枚約24パーツを4枚)をただ切る作業…。アートセンターのスタッフさんから、「学芸員は別名“雑芸員”と言われているくらい雑用が多い職種だよ」と言われた通り、思っていたものに比べると小物作成のような作業の方が多い気がした。ただ、手芸のような細かな作業や淡々とした作業が得意な私にとっては、適度に休憩を挟みながらであればこの作業は苦でなく、はさみで手が痛くなるのを除けばむしろ楽しかった。



写真4：浮世絵展のパーツ切り

～実習全体を通して～

それぞれの大変さや良さ、難しさを知れたという点で、自然史系博物館施設と美術系博物館施設のどちらの実習も体験できて良かったと、実習を終えて改めて思った。生き物を扱う難しさ、美術作品を扱う難しさ、それぞれ大変なことが多いため、1番は各種ごとの特性や性質をきちんと理解していないといけないことに身をもって気づかされた。ただ、途中でも少し述べた通り、どの分野にもおけることかとは思いますが、やはり【報・連・相】という基本的なコミュニケーションが学芸員と職員や作者との関わり、また館の運営の中で非常に重要なカギを握っているのだと感じた。

この場を借りて、このコロナ禍で忙しい中、実習を引き受け指導して下さった大淀川学習館の皆様とみやぎきアートセンターの皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

熊本博物館（熊本県 熊本市）

実習期間：令和3年8月25日～8月30日

薬学部動物生命薬科学科

木下 楓那

私は8月25日～8月30日の6日間、熊本県熊本市にある熊本博物館での博物館実習（自然史系）に参加した。実習生は私を含めて26名（自然史系13名・人文系13名）であった。新型コロナウイルス感染拡大により実習に影響が出ると思われたが、同博物館ではマスク着用や毎朝の検温などの感染対策を徹底するという事で予定通り全日程のプログラムが行われた（表5）。

初日と26・27日の午前中は全体（26名）での実習で、同2日間の午後と28～30日は自然史系と人文系にそれぞれ分かれての活動だった。

初日は実習オリエンテーション、管理業務・設備管理、バックヤード見学、常設展示見学であった。午前中は熊本博物館の概要や施設設備についてのスライドを見ながら説明を受けた。

午後からは、バックヤード見学と常設展示見学を行った。バックヤード見学では、自然史系で2班に分かれそれぞれの班に学芸員さんが1名付き、説明を受けながら収蔵庫の見学を行った。常設展示見学は個人で自由に見て回った。また、実習期間中は常設展・特別展が見放題で課題作成のためであれば学芸員さんの許可を得て収蔵庫にも入れることができた。

表5：熊本博物館での実習スケジュール

日	9：00～10：15	10：30～12：00	13：00～14：20	14：30～16：00
8月25日	オリエンテーション	管理業務 設備管理	バックヤード 見学	常設展示見学
8月26日	保存科学		動物	
8月27日	博学連携について		自然系ミュージアムカフェ	
8月28日	地質		来館者対応・プラネタリウム見学	
8月29日	植物		課題作成	
8月30日	天文		課題発表	

2日目は、保存科学と動物の座学だった。全国でも数の少ない保存科学専門の学芸員さんの座学では、スライドによる説明の後に実践実習として『植物標本についてカビの除去』を行った。作業としては、ブラシでカビを掃きながら掃除機で掃いたカビを吸い取り、綿棒にアルコール液を付けカビの生えた部分を消毒するという内容だった。資料にはカビだけでなく、虫喰いの跡があり害虫がいることがわかった。注意点として、掃きながらどんな害虫がいるかをよく観察し掃除機で吸い取ること、アルコール液をつけすぎないことがあった。カビの除去について理解することができたほか、虫喰いの跡によってある程度害虫の種類がわかることを知った。

午後からは動物の資料についての座学を受けた。主に昆虫に関する説明で、実践実習として<昆虫標本登録の前処理>を行った。作業はボランティアの方々が採取したカミキリムシの種類ごとに分け、保存用のドイツ箱に戻すという内容だった(写真1・2)。ラベルに名称は書いてあるがわからない個体や名前の違う個体に関しては辞典を使用した。注意点として、ドイツ箱は開けにくいいため持ち上げずに机の上で開けること、資料の上で辞典などを使用しないこと、標本は固定されてはいるが脚や触覚などの細かい部分は折れやすいので触れないようにすること、針を扱うので周りの人との距離をとることがあった。普段昆虫標本に触れる機会がないため、貴重な体験ができたとともに取り扱いの難しさを実感した。今回はカミキリムシのみの処理だったが、様々な種類の昆虫の処理となると知識はもちろんのこと、忍耐力も必要になってくると感じた。

3日目は博学連携についての座学と自然史系ミュージアムカフェを行った。午前中の博学連携については熊本博物館の学習プログラムについての座学を受けた。座学の後に2つの実践実習を行った。1つ目は、<学習プログラムを考える>で、常設展示を観に行き各自で学習プログラムを考えるという課題が出された。制限時間30分で学習に使える展示を選びプログラムを考える。考えたものは班内で発表し選ばれた人のプログラムを班の代表者が全体の前で発表した。班は自然史系・人文系に関わらずバラバラな班だったため、多様なアイデアを聞くことができ、刺激を得た。

2つ目は<子供科学イベント実習体験>で、紙バックの作成を行った。その際に画像のみの作成書が配られどのように説明したら子供にわかりやすく伝えられるのかを各自で考えた。考えた意見は班内で共有し、さらにまとめた内容を代表者が発表した。博物館は学習の場でもあるため、学習プログラムを考えるのは学芸員の大きな仕事のひとつと実感したとともに、説明能力が重要で、人前で発表する機会も多いのを実感した。

午後からは、自然史系ミュージアムカフェが行われた。地質・動物・植物・天文の自然史系学芸員さんとのフリートークだった。学芸員の仕事内容、採用条件など何でも質問してよかった。このような時間を設けてもらったので、学芸員さんと深く会話することができたり、学芸員さんから質問されたりと充実した時間が過ごせた。また、動物専攻として実習に参加したが、様々な専門の学芸員さんと会話したことで視野が広がって天文分野などにも興味が湧いた。

4日目は、地質の座学講義と来館者対応、プラネタリウム見学を行った。午前中の地質では、地質資料の収集方法および注意点、化石などの標本作成についての講義を受けた。実践実習として、化石(三葉虫)のクリーニング作業を行った(写真3)。注意点として、化石に垂直に釘を当てハンマーで加減しながら叩き削っていくこと、化石をよく観察し形を想像しながら削っていくことがあった。

午後からは、来館者対応とプラネタリウムの見学で、来館者対応では館の入場券売機対応

と、プラネタリウムの発券機対応、さらに案内を行った。プラネタリウム見学では、見学するだけでなくコロナ対応として上映後の座席の消毒を行った。天文分野では各自でプラネタリウムで上映することを目的とした3分程度の原稿を書くという課題が出された。来館者対応を通して、コミュニケーション力の重要性を改めて実感した。

5日目は植物の座学と課題作成を行った。午前中は植物分野での資料管理の座学を受けた。実践実習として、<さく葉標本の保存および登録前処理>を行った。さく葉標本に貼ってあるラベルに記載されている事項を紙にまとめ、植物の名称等に間違いがないかを辞書を用いながら調べた。同時に虫喰いの跡の確認や壊れてしまった標本の修正を行い、専用の袋に丁寧にに入れていった。注意点として、さく葉標本を扱う際には平行に持つこと、ちぎれた葉も一緒に袋に入れることがあった。

午後からは、最終日に発表する課題の作成を行った。3名ずつの4つの班に分かれて、季節のイベントと植物を掛け合わせた展示を作成した。使用したい資料は植物専門の学芸員さんに相談しながら作業を進めていった。班員で手分けして作業を進めることができ、ここでもコミュニケーション力の重要性を実感した。設置する台などは自作してもよいということだったので、キャプションを置くことのできる小さな階段状の台を作り、効率よく設置場所を確保するとともに見やすさを重視した。

最終日は、天文の座学と課題発表だった。午前中の天文では、プラネタリウムの歴史の座学を受け、原稿を読む前の発声練習を行った。その後、天文の学芸員さんに星座を映し出してもらいながら1人ずつ各自で考えた原稿を発表した。注意点として、早口にならないこと、はきはきとした声で話すことがあった。原稿をプラネタリウム内で読むことができるという貴重な体験ができ、毎回のシナリオを自分で考えることがいかに困難であるか身をもって体感した。



写真5：日本の秋はススキとともに

午後からは、前日に作成した展示の発表を行った。各班 15 分ずつで発表を行い最後には質疑応答の時間が設けられていた。1・2 班は季節のイベントと地質を掛け合わせた展示がテーマで、3・4 班は季節のイベントと植物を掛け合わせた展示を作成した。私の班は『日本の秋はススキとともに』（写真 5）というテーマで、月見とススキ、秋の七草、ススキのキャプションをつけ、さく葉標本と種子の標本を展示した。こうした発表を通して、人前に出ること慣れることができ、自分の意見を伝え納得してもらうことの難しさを改めて実感したのであった。

実際に体験することで、学芸員の仕事内容や役割が具体的にわかり、学芸員として働いてみたいという思いがさらに増した。熊本博物館で濃い 6 日間を過ごすことができ、実習のひとつひとつがとても貴重な経験だった。

三重県総合博物館（三重県津市）

みやぎきアートセンター（宮崎県宮崎市）

実習期間：令和 3 年 8 月 17 日～8 月 19 日、11 月 6 日～11 月 7 日

薬学部動物生命薬科学科

野呂 佳音

私は 8 月 17 日～19 日までの 3 日間、三重県にある三重県総合博物館で博物館実習に参加した。同館は「MieMu」という愛称で知られている平成 26 年にオープンした新しい施設である。2 階の展示正面には「ミエゾウ」の骨格標本があり、館のシンボリック的存在にもなっている。

1 日目はガイダンス、館の概要、館長による講義、展示見学であった。三重県総合博物館の展示室には、基本展示室・特別展示室のほかに公文書室・こども展示室がある。基本展示室は各方角に三重の特徴的な自然環境を配置し、中央にはその中で育まれた人・モノ・文化の交流史を展開している。特別展では宝石や岩石を展示した『やっぱり石が好き!!』展が開催されていた。こども展示室では、基本展示室と同様に 4 つの地域に分けられており、その中で滑り台やトンネルで遊びながら学べるようになっていた。

2 日目は、博物館学入門と保存科学入門を専門の学芸員さんから学んだあとバックヤードの見学を行った。バックヤードには、ガス滅菌のための大きな装置などがあつた。収蔵庫の位置にも資料を守る工夫がされていて、建物の後背に立地する丘陵側には湿気に強い自然史系の資料、市街地側には湿気に弱い人文系の資料が収蔵されていた。他にも、西日があたる位置を学芸員の研究室としており、建物の構造から資料を極力保護することができるように計画されていた。講義・見学の後は課題制作を行った。課題は、実習生 17 人がそれぞれ持ち寄った「お土産」を使って企画展示を考えるというものだった。

3 日目は、自然史資料・人文資料と、それぞれの取扱いについて学修し、さらに課題作成の続きと発表、コロナ対策の手伝いを行った。人文資料の取り扱いでは、巻物の定期検査の仕方や仏像の運び方を学んだ。課題の発表は、一人ずつ A4 の紙に書いた企画案を見せながら 3 分ほどプレゼンテーションを行った。私はあんこのお菓子が多いことに注目して、あんこの歴史からお土産に使われるようになったきっかけをお菓子と共に展示する『あんこはお肉の代用品!?!』展を企画した。コロナ対策の手伝いは、館内にある図書スペースにある本を全て撤去した。

今回、3 日間の実習を通して学芸員さんのリアルな仕事を知ることができた。学芸員さん

の仕事量は膨大で、さらにボランティアさんとも協力しながら作業や研究に取り組んでいることを知った。

三重県総合博物館の後、みやぎきアートセンターで11月6・7日の2日間、実習に参加した。

1日目は、みやぎきアートセンターの概要と企画展示の立て方、チラシの設置依頼、宮崎市美術展受付及び監視業務を行った。みやぎきアートセンターは地域活性化のために宮崎市の中心市街地に設置された施設で、一般の美術館ではあまり行われていないようなサブカルチャーをメインとした企画を行い、多くの人に親しみやすい場となっている。この1日目に宮崎市美術展の作品の中からいくつか選んで企画展示を考えるという課題が出た。私は、写真展の中から夏に関係する作品を5選び、『夏といえば』展を考えた。チラシの設置依頼は中心市街地の店舗を一軒ずつ回って、次の企画展のチラシ設置を依頼した。実習では初めての営業業務だった。この日、宮崎市美術展受付及び監視業務は、それぞれ1時間ずつ行ったが、来館者の動向を見すぎないようにとアドバイスをもらった。

2日目は開場業務、表彰式見学と片付け、宮崎市美術展監視業務、キャプション作成、ポスター貼り、照明設置、チラシの修正シール貼り、生頼範義についてのレクチャー、展示について、足跡サインづくりと設置、宮崎市美術展受付と、多様な業務内容を学修した。開場業務では各展示室の温湿度測定、展示物が傾いていないかなどを確認してまわった。

アートセンターでの実習は2日間だけだったが、お客様と接することが多く、言葉の使い方や表情を工夫した良い経験になった。また、総合博物館とは違ったアートセンターならではの作業が多く、2つのミュージアムでの学芸員さんの働き方の違いについても知ることができた。